

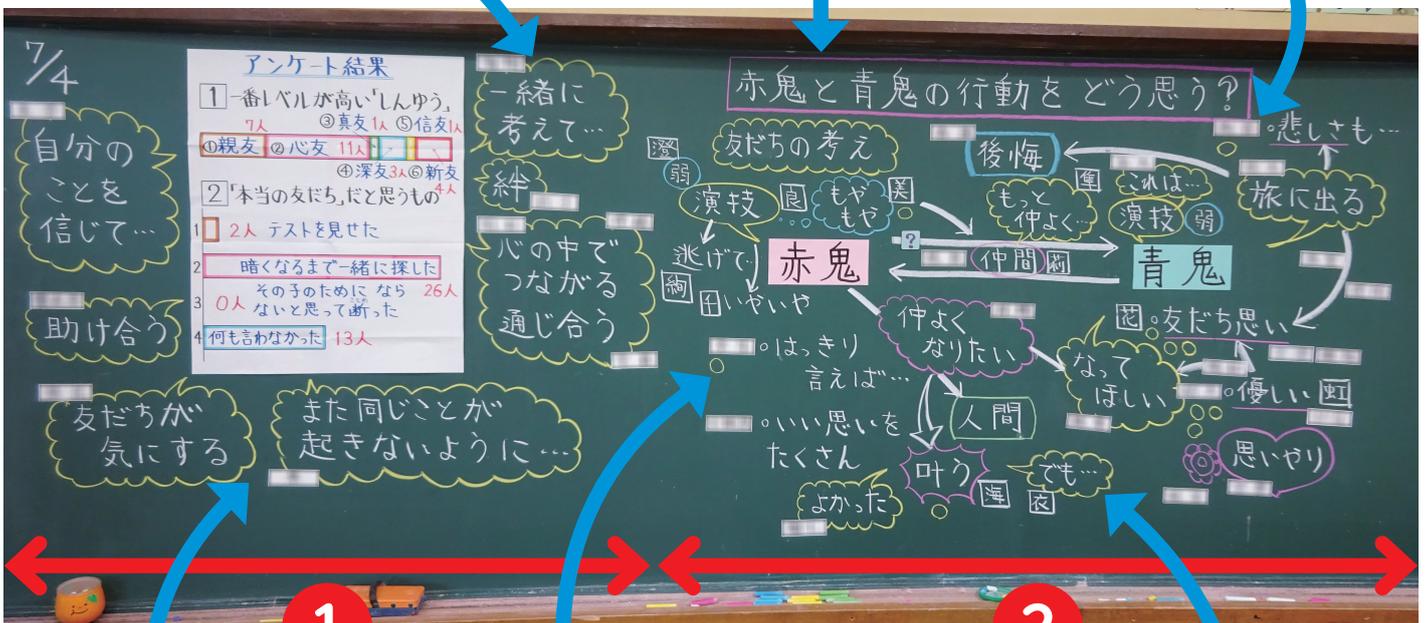
# 泣いた赤おに (4年)

## 板書の工夫

子どもの思考の流れを明確にするために、横書きで左→右に板書していく。

学習課題は、□で囲む。

板書した発言の近くに、発言した子どもの名前が示してあるネームプレートを貼る。



矢印・吹き出し・記号・色などを使って情報を整理する。

子どもから、似ている意見・付け足し意見が出た場合は○，違う意見が出た場合は○を付ける。

発言はそのまま書くのではなく、端的に表す。

## 板書の流れ

- 1 導入部分は、黒板の左側に板書する。本事例では、「友だち」とはどのようなものだと思うかについて、事前に行ったアンケートの結果を提示した。子どもたちが書いた理由の中で、本教材の道徳的価値と関わりがあるものを精選し、意図的指名により発言させる。その際、子どもたちの発言は、模造紙の近くに吹き出しを使って端的に板書する。【5分】

2

本学級では、子どもたちに考えさせたい学習課題を一つに絞って提示している。課題を提示し、いきなり話し合いをさせても、なかなか話し合いは深まっていけないので、初めに自分の考えをノートに書かせるようにしている。書く時間を保証することも、自分自身と向き合うために必要である。【7分】

その後、自由に発言させていく。「赤おに」について考えた子どもの発言は左側、「青おに」について考えた子どもの発言は右側に書いていく。発言が増えてきたら、矢印・色・吹き出しなどを使いながらまとめていく。【15分】

補助発問はいくつか用意しておき、子どもたちの話し合いの様子に応じて投げかけていく。青おにの立場での発言が多く見られる場合は、「赤おにが青おにに対して行動したことはないのか？」などと問いかけることで、赤おに・青おに、双方の立場で考えられるようにする。【10分】

話し合いのまとめとして、子どもたちと板書を見ながら大切なキーワードを探させる。教師の言葉でまとめるのではなく、できるかぎり子どもたちから出た言葉そのものに着目させるようにする。子どもたちから、「思いやり」という発言が出れば、花丸をつけるなど、意欲を喚起するようにしたい。

その後、「道徳日記」（本学級では、教科ごとの振り返りノートを「日記」とよんでいる）を書かせる。机間指導をし、道徳的価値に対する変容が見られた子どもを中心に、意図的に指名する。【8分】

## 板書心得

- 授業前の価値に対する考えがどのように変容していくか、明確になるような板書を！  
教科書は縦書きであるが、子どもたちの変容を明確に意識づけられるのは横書きである。左側から、「導入→展開→終末」の流れが表れる板書にしたい。
- 情報量は少なく、視覚的に捉えやすい板書を！  
文字量が多い板書は、後から見直したときに見づらい。文字量を少なくし、色・記号・吹き出し・矢印などを駆使して、視覚的に捉えやすい板書を心がける。
- 授業後は板書を写真に撮り、活用する！  
いくら事前に板書の計画をしても、当日は全く違うものになる。その日の板書を写真に撮り、後から見直すことで、板書のテクニックは格段に上がる。  
また板書をノートサイズに印刷し、子どもたちに配るのも効果的である。本学級では道徳ノートを作って活用しているため、子どもたちの振り返りにも役立っている。